

伯耆町総合教育会議 会議録(この会議録は発言を要約したものである。)

召集年月日	平成29年10月6日(金)		
召集場所	伯耆町役場 応接室		
開会時間	午前9時52分		
出席者	町長：森安 保 副町長：阿部 泰 教育長：後藤 弥 教育委員：仲倉玄雄、田中榮美子、大木寿之、松岡和代		
事務局等出席職員	総務課：斉下課長、遠藤主幹 教育委員会事務局：松原次長、野坂室長	会議録作成職員	総務課主幹 遠藤 友識
提出議案等	1 開会 2 議題 (1) 伯耆町教育振興基本計画(H30-H32)の概要 (2) 平成30年度教育の重点について 3 その他 4 閉会		
閉会時間	午前11時00分		

会議の顛末

後藤教育長	<p>【開会あいさつ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会議は、町長部局との連携・協力の元進めていかなければならない。 ・教育振興計画の見直しを総合計画と併せて進めているので、今日はそのあたりについて、協議していきたい。
斉下課長	議題について、教育委員会から説明をお願いします。
後藤教育長	<p>【議題説明(概略)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町の教育の基本となる「教育振興計画」について、総合計画とリンクしながら改定を進めている。

後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から32年度が総合計画の終期であり、これに併せて基本計画の変更を考えている。 ・計画には「学校教育」と「社会教育」の2項目があり、基本は今までの施策を踏襲する形でと考えている。 ・「学校教育」では、来年度からすべての学校でコミュニティ・スクール（以下「CS」という。）の指定となるため、CSと小・中一貫教育をどのように繋げていくかが課題となってくる。 ・「ひとに優しい」という文言で、教育環境の整備として学校施設のバリアフリー化や近年増加する特別支援を要する生徒・児童への対応を表現している。 ・「社会教育」の変更点は、「生涯学習」ということで一括りとしていたスポーツの部分について「スポーツで心と体の健康づくりの推進」について、新たな項目として扱うこととした。 ・「交流」という言葉を重要なものとして扱っているので、「スポーツ」や「文化芸術」を通した「交流」ということで進めたい。 <p>それぞれの詳細については、各担当から説明をさせます。</p>
松原次長 野坂室長	<p>【議題（1）説明】</p> <p>「（1）伯耆町教育振興基本計画（H30-H32）の概要」について、資料に基づき説明。</p>
斉下課長	説明内容について、意見等がありますか。
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> ・計画内容について町長部局の方で査定してどうこうはないですが、それぞれ結果が出るようにやってもらいたい。 ・CSについて、制度としてはいいものであるが、あくまでも手段であり、CSをすることが目的となつては意味がない。各学校のマネージャーである校長先生には、このことを理解してもらい、しっかりとマネジメントしてもらいたい。 ・子どもに「頑張る」という意識を持たせることを考えないといけない。与えられるではなく、自発的に取り組むことの動機づけとなる手段・手法を考えていかないといけない。 ・今後小学校での英語教育が義務化となり、ますます英語教育の重要性が増してくる。英語を勉強というよりも身近なものとして触れていくことが必要だと思う。児童数等を考えると小学校にもALTが必要になってくるのではと考えている。
後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・英語教育については、平成32年度から小学校3年生以上が全面実施となり、来年度から移行実施が始まる。学校によって、取り組みの温度差がある。中学校のALTは週1回各小学校に派遣されているが、児童数の規模

後藤教育長	によっては、行き届かないことがある。教育委員会では、民間の活用も考えている。
森安町長	・英語教育では、ネイティブの外国人と触れる環境を作らないといけない。外国人としゃべるというモチベーションが必要。
仲倉委員	・これまでの単語や文法を覚えるような学習方法では対応できない。 ・教育現場では、次々に新しいことが導入されるが、学校での学習時間は限られている中で、追加されるばかりであり飽和状態であり心配である。学校任せでなく、家庭教育の協力も必要だと思う。
森安町長	・これまで町としては、学校の設備・機能については、できる整備はしてきたので、教育現場の負担軽減を図るようなシステムの構築やA Iスピーカーなど最新技術の活用なども検討してもらいたい。
阿部副町長	・仲倉委員の言われたとおり、これまでの英語学習は覚えることが主となり、会話をするというものではなかった。
仲倉委員	・英語を使ったお店屋さんごっこのような、親しみをもたせるような学習にしなければならない。詰め込み学習でなく、自然と英語に触れる手法を考える必要がある。 ・子育てについて、核家族の増加など子育て環境の変化もあり、学校だけでは難しい状況になっている。そこで、「地域の教育力」を活用する手段としてCSを活用が重要。
松岡委員	・目の前で外国人と対峙した場面での娘を見て、英語を発することへの躊躇と話しかけるといことへの物怖じ感があった。英語力も必要だが、人と「交流する力」も大事な要素だと感じた。
大木委員	・ALTの増員となれば、多額の費用がかかると思うが、インターネットを活用した英語学習ができる環境を整えることで安価にできると思う。
森安町長	・簡単で親しみやすく英語に触れられる手段・手法を考えないといけない。 ・ヒアリングはある程度できるが、話して会話をすることが難しい。
田中委員	・町内にも英語のできる人材はいるので、いきなり外国人でなくても、まずはそこから英語に親しむことを覚えてからでも良いと思う。
後藤教育長	・財政的に見るとALTには、交付税措置があり費用負担が少なくできるメリットがあるが、米子市内にも定住の外国人がいるため、そういった人材の活用も含めて検討が必要。 ・現在は、学校だけでなく地域や家庭との関わりを含めた、校長のマネジメント力が本当に求められる。今までの感覚では、校長は務まらないため、研修の機会などを作っていかなければならない。

森安町長	<ul style="list-style-type: none"> 給食については、施設も含め計画的に進めることとなっているので、お願いしたい。
仲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> 児童数の減少がますます問題となる。児童数が減少すれば、複式学級にならざるをえないが、小規模学校の減少により、最近では複式学級に対応できる教員の人材が育っていない。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> 以前に複式学級を見に行った時に感じたことですが、先生が別の学年を見ているときは、何もしていない状況があった。複式学級は大変だなと感じました。
後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> 現在、二部小学校が教員の加配があることで本来複式学級である児童数でありながら、単式学級としている。本来、教員がもう一人分足りないため先生がそれぞれの仕事+αの負担しながら実施となっている。 一旦は、統合をしないと決めた八郷小学校と二部小学校ではありますが、平成34年、35年あたりには、児童数が減ってくる状況になる。そのあたりでは、再度統合についても検討が必要となってくる。
仲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> 小学校もだが、これからは中学校のことも問題となってくる。
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> 中学生になれば、競争することも必要となる中で、小学校から中学校まで9年間クラス替え無しで進級していくことが子どものためになるのかがとても心配。
仲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> 中学校での成績が悪ければ、自分たちの責任だというくらいの思いで、小学校は取り組まないといけない。
松岡委員	<ul style="list-style-type: none"> 岸本中から八郷小に教員が人事交流されているようですが、小・中一貫の教育という点で意識の高いことだと思った。
後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> 小学校と中学校では教員の文化が異なっている。ここを教員の交流ということで混ぜ合わせていくことはとても良いことではあるが、専門教科や年齢、経験年数などの問題もあり、単町の小・中学校だけでの人事交流は難しいのが実情である。
仲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> これからの小学校高学年は、与えられる宿題を減らし、自分が分からないところを自分で勉強するようなスタイルに切り替えていかないと、子どもは宿題があったら勉強するがなければ遊ぶという生活になってしまう。これでは、中学生になってから難しくなる。
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> 「自分で頑張る」ということを、どうやったら育てられるかが課題。
後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> 最近では、学校や家庭で教員や親が何でもやってしまったり、全てにおいて指示を出すことが多い。自分で考えて行動できる自立心を育てるためには、自らがせざるを得ない状況に追い込んでいくような体験を仕組んでいかないといけない。

大木委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに教えるということで影響力を持つのはやはり親である。まずは、親の教育から始めないといけないかも知れない。
仲倉委員	<ul style="list-style-type: none"> ・伯耆町は、まだ祖父母と同居している世帯が多いため、子どもが落ち着いていると思う。核家族化の進んでいる市内の学校とは大きく違う。帰宅して家に誰かいるという安心感からか子どもが落ち着いている。何か特別なことをしていなくても祖父母が果たしている役割は大きい。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・八郷小の学校だよりも高学年の凡事徹底ができるようになってきたと書いてあり、とても良いことだと思った。
後藤教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・溝口中学校区で使っていた「凡事徹底」という言葉が、岸本小、八郷小にも広がり「凡事徹底」を統一して使うこととなった。こういうことが繋がってやっていけるようになると良いことだと思う。
松原次長 野坂室長	<p>【議題（２）説明】</p> <p>「（２）平成３０年度教育の重点について」について、資料に基づき説明。</p>
森安町長	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の話については、査定での話になりますが、必要な部分には予算をかけている。しっかり吟味した要求としてください。 ・鬼の館についても改修は必要になります。音響・照明設備については、芸術的どうこうではなく、素人でも使える使いやすさ重視で考えること。
斉下課長	<p>（そのほかに意見等が無いことを確認した。）</p> <p>（次に「その他」の案件がないことを確認した。）</p> <p>以上で閉会します。</p>